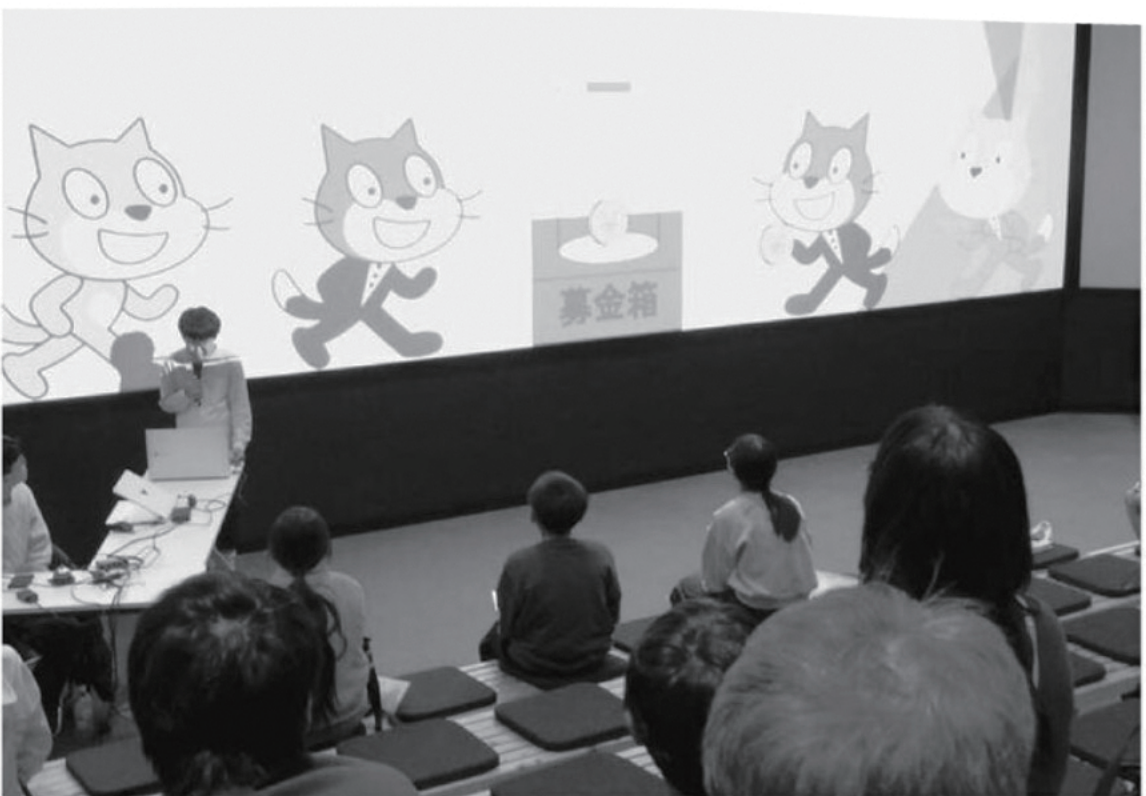


6〜12歳までの小学生を対象に、コンピュータープログラミングを用いて開発されたソフトウェア作品の中から、全国大会に挑むファイナリストを決める「2025年度全国選抜小学生プログラミング大会県大会」（奈良新聞社主催、奈良高専・平城宮魅力創造プロジェクト 市共催）が24日、同市の平城宮跡歴史公園内で開かれた。「みんなの未来」をテーマに20年度から全国新聞社事業協議会が実施。県大会は22年度からで、今年度は25の個人・団体の中から一次審査を通過した9人が出場。最優秀賞には伊田和生さん（上牧第3小学校6年）の「めざせ100歳！すぐろく人生」が選ばれた。

全国選抜小学生プログラミング県大会

伊田さん（上牧第3小）最優秀



1人3分の持ち時間で小学生らがプレゼンテーションしたプログラミング県大会＝24日、奈良市二条大路南4の平城宮跡歴史公園内「天平みはらし館VRシアター」

子どもの視点で課題に

伊田さんは、来年3月8日に東京都内で開かれる全国大会に出場する。

同公園内の「天平みはらし館VRシアター」で行われた県大会には、保護者や関係者ら20人余りも詰め掛けた。9人はスライドを用い、1人3分以内でプレゼン

「自分たちに何ができる」

「何が問題なの」といった視点が生かされた作品が並んだ。オリジナルのキャラクターや、音楽を取り入れるなどしたほか、ゲームを通して「学び」を深める要素も含まれていた。

小崎審査委員長は「全体的に楽しい内容。プログラミングするときは技術的な

ことだけでなく、作り手の思いが伝わるようなことも工夫してみてください」と話していた。

また、優秀賞には久保田千晴さん（上牧第3小6年）の「ゲーム&学び『熱中症対策』」と、牧野永菜さん（上牧小5年）の「大雨が降るとどうなるの？」が選ばれた。

ンテーション。小崎誠二・奈良教育大学教授を大会審査委員長に、4人の審査委員が発想力、表現力、技術力で評価。今大会では、平和や、最近の温暖化や環境問題、熱中症対策、災害など、現代社会が抱える課題に子どもの目線を通して